

令和3年度各分野に対する考察のまとめ  
首長・ビジョン懇談会委員書面による意見交換  
定住自立圏担当課長会議  
定住自立圏担当者会議



# 健康

## 平均寿命と健康寿命の差

(歳)	平均寿命		健康寿命		差	
	男	女	男	女	男	女
美濃加茂	81.36	88.26	79.9	85	1.46	3.26
坂祝	80.8	86.89	79.23	82.97	1.57	3.92
富加	80.59	87.89	79.58	85.67	1.01	2.22
川辺	81.44	86.35	80.26	83.53	1.18	2.82
七宗	80.64	86.69	79.12	83.78	1.52	2.91
八百津	79.75	86.44	78.56	83.89	1.19	2.55
白川	79.52	87.07	78.36	84.29	1.16	2.78
東白川	77.67	85.51	76.57	82.9	1.1	2.61
岐阜県	80.98	86.86	79.57	83.71	1.41	3.15

出典：第3次ヘルスプランぎふ2 1

## 事務局の意見

### ▶定住事業で実施している取組み

- ・健康データを分析し、その結果から事業展開を行う。また、データを分析できる職員を育成
- ・24時間対応できる健康、医療、介護等に関する相談窓口を開設
- ・健康づくりのきっかけづくりとして地域を楽しむウォーキングイベントを開催

### ▶各市町村で実施している取組み

- ・栄養教室の開催、食生活改善に関する取組み
- ・ICTウォーク、健康ポイント事業を実施

### ▶今後必要な取組み

- ・高齢者に対して予防する対策
- ・圏域の山を活用したウォーキング

## 首長の意見

### ▶今後必要な取組み

- ・ 医療従事者支援（人材確保）
- ・ 健康増進のための専門家の派遣
- ・ 健康ポイントを付与し、圏域内で消費できる仕組みづくり

## 薬袋委員の意見

- ・ 健康においては、表に出てくる方だけが対象になる取組みだけではなく、あまり出ない方へも目を向けていくことを大切にしたいと考えます。
- ・ 運転免許を返納した後などの支援は重要。そのためにもニーズ調査が役に立ち、データ分析が重要と考えます。
- ・ モデル地区を作って、健康事業を展開していきたいと思っております。

# 未来のヒトづくり

## 転入転出データ

転出者(人)	0～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上
美濃加茂市	431	877	530	282	249
坂祝町	67	165	92	42	50
富加町	26	70	38	12	20
川辺町	67	198	64	29	30
七宗町	30	59	26	10	20
八百津町	51	121	66	23	53
白川町	63	112	59	12	40
東白川村	11	22	11	6	16
合計	746	1624	886	416	478

転入者(人)	0～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上
美濃加茂市	465	900	567	273	281
坂祝町	84	149	128	66	43
富加町	37	65	47	18	23
川辺町	51	123	68	23	40
七宗町	18	25	13	7	9
八百津町	37	70	60	24	36
白川町	36	46	31	15	47
東白川村	10	19	7	3	4
合計	738	1397	921	429	483

出典：H27国勢調査

## 事務局の意見

### ▶定住事業で実施している取組み

- ・聞き書きや里山体験を行い、地域の暮らしや文化を知り、地域に愛着を持つ住民を増やし、将来の定住に繋げる
- ・里山体験事業や、アクティビティのメニューを作成し、里山に興味のない方へも参加できるようにする
- ・三年晩茶製造を通じて里山に愛着を持つ住民を育て、商品化を目指す

### ▶各市町村で実施している取組み

- ・高校生を対象にフィールドワークやワークショップを通じて、若者に新たな気づきや学びを提供
- ・ワーケーションの推進
- ・地域に根付く伝統文化を大人と子供が一緒に関わることで郷土愛を育む

### ▶今後必要な取組み

- ・空き家対策、新しい住民の確保
- ・テレワークの推進による圏域への定住者募集

## 首長の意見

### ▶今後必要な取組み

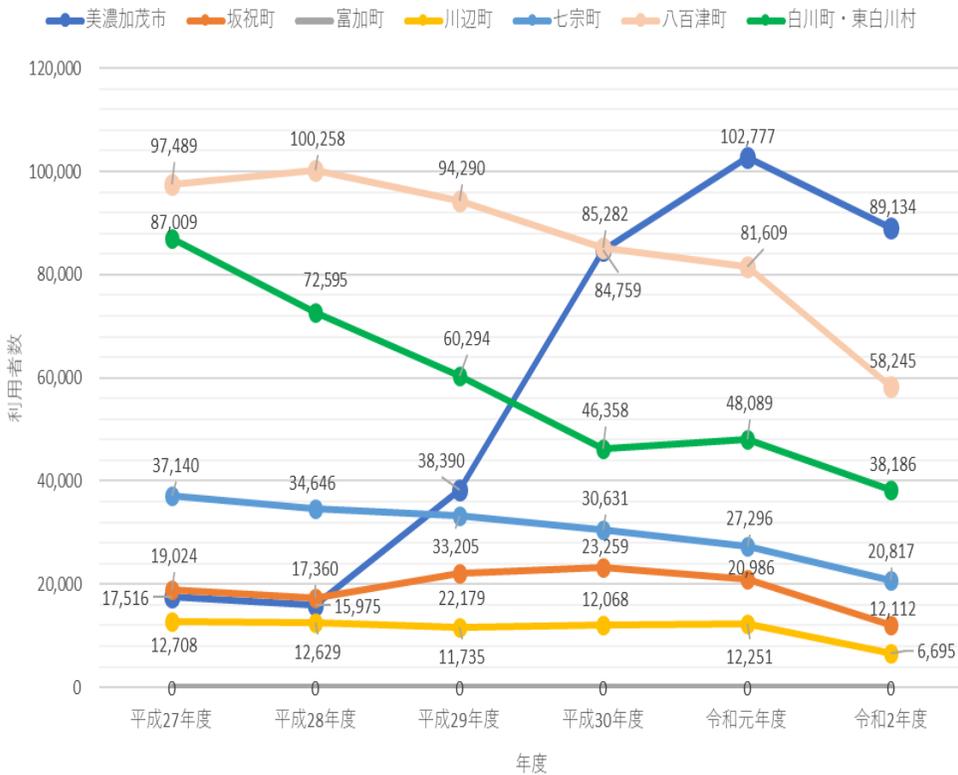
- ・ 圏域の移住施策
- ・ 教育機関との連携
- ・ 町民が主体となって取組んでいる組織が少なく、そういった人材育成と組織作り
- ・ 多様な町民参加による協働の仕組み作り
- ・ 美濃加茂市の高校生に圏域共同でふるさと教育
- ・ 高校生のための寄宿舍など整備
- ・ 保育士、ケアマネなどの要資格職種の人事交流

## 澁澤委員の意見

- ・ 学校教育（教育委員会）との連携  
里山づくり、聞き書きなどを小中の探求的学びのカリキュラム化や、高校魅力化事業とつなげる。
- ・ 地域内の消費ネットワークを確立  
三年晩茶事業は、特産品づくりでなくあくまでも地域外消費を地域内に取込む試み。
- ・ 現在の首長の皆様が、未来の地域がどのようなようになってほしいか、そのためにどのような人を育てたいのかを明確に示す必要がある。空き家対策、ワーケーションの呼び込みはその延長線上にあるだけ。
- ・ 東京や名古屋の価値観を追い求めない、独自のどのような地域コミュニティや地域連携を目指すのか、そのための適正な人口は、持続できる産業は、地域経済はそしてその担い手はと展開していかないといけない。

# 公共交通

## 公共交通（バス）利用者数推移



## 事務局の意見

### ▶定住事業で実施している取組み

- ・圏域公共交通の課題を洗い出し、共通課題を設定し解決策を考察
- ・圏域公共交通計画の策定
- ・圏域の公共交通情報の見える化（G T F S化）

### ▶各市町村で実施している取組み

- ・モバイルチケットの導入
- ・町外の高校へ通学する生徒への補助
- ・乗車アプリ、車内wifi整備

### ▶今後必要な取組み

- ・乗り継ぎシステムの研究、導入
- ・利用者ニーズを把握

## 首長の意見

### ▶今後必要な取組み

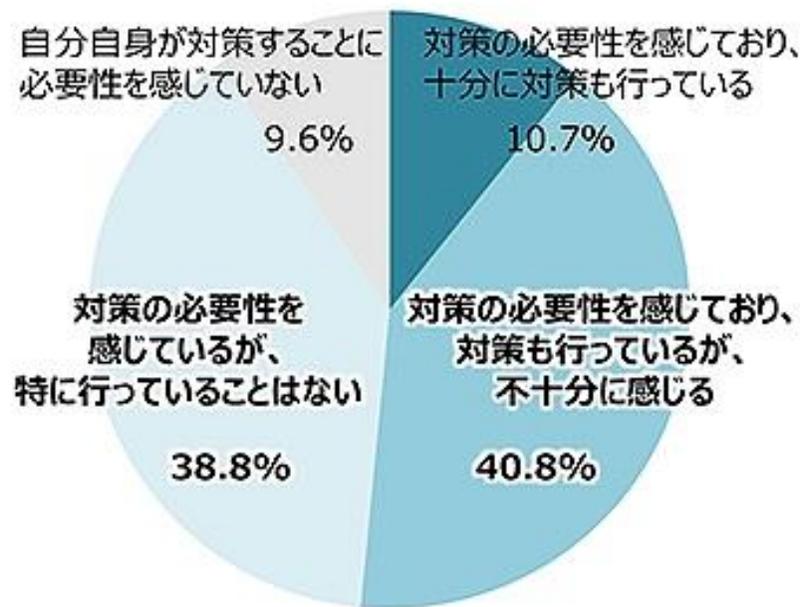
- ・ 圏域公共交通計画が必要
- ・ 広域的にバスを走らせること
- ・ 管内高校生が通学できる仕組み
- ・ 村の福祉バスと美濃加茂のあい愛バスの連携ができないか調査をする事

## 松本委員の意見

- ・ コロナによる外出自粛が要請される中、今しばらくは公共交通を無くさないための最大限の努力をお願いしたい。
- ・ 定住事業としての取組みの方向性はこれで良いと思う。
- ・ タクシーの活用をもっと検討してみてもは。タクシーについては今後様々な利用方法が模索されており、DXによって大きく可能性が伸びる。次代の乗り物としてスマホが使える高齢者に向けて今から検討を早急に始めるべき。
- ・ 広域の移動をどう支えるかの検討。圏域を跨ぐ移動ニーズを捉え、それをどうつなぐか、その結末点をどう整備するのが重要で、それが圏域の公共交通計画につながる。
- ・ コロナ過で減少した公共交通利用者呼び戻す取組みも不可欠。
- ・ 「健康」「未来のヒトづくり」では興味深い取組みが並んでいる。是非、公共交通でいけるように連携をして進めてほしい。
- ・ 「健康」に関しては、免許返納前から公共交通で移動する行動を体験し、返納後に引きこもることなく元気に出かけられる生活が送れる取組みがあると良い。

# 防災

＜図1＞現在の防災意識と対策状況（単一回答：n=1,100）



出典：クロスマーケティング2021

## 事務局の意見

- ▶定住事業で実施している取組み
  - ・防災士養成講座を圏域で合同開催
  - ・従来の防災訓練ではない、誰もが参加したくなるような防災イベントを実施
  - ・圏域職員による、り災証明書発行等の災害時想定訓練を実施
- ▶各市町村で実施している取組み
  - ・自主防災組織への補助金
  - ・防災アプリ
  - ・防災訓練
- ▶今後必要な取組み
  - ・普段防災に関心がない層へのアプローチ
  - ・消防団の圏域連携体制

## 首長の意見

### ▶今後必要な取組み

- ・防災アプリ、定住外国人籍への対応
- ・ケーブルテレビ、FMららを活用した防災情報発信
- ・災害時の資機材、人材の整備、備蓄等の相互協力ができる体制

## 栗田委員の意見

- ・圏域での防災士の養成は効果的だと思うが、修了者が地域で活動しやすい環境整備やフォローアップが必要。
- ・圏域職員の災害時想定訓練は災害証明書の発行に止まらず、災害救助法などの関連する法制度のポイントだけでも事前に学んだ方が良い。
- ・市町村での取組みは極めて一般的な取組みとも言え、データからの改善にはより積極的なメニューの実践が必要。
- ・災害時にはまずは自力で避難することが求められるため、「防災は健康づくりから」とも言われている。ウォーキングイベントと防災は結び付けやすい。
- ・「未来のヒトづくり」において、里山体験やアクティビティーはまさにサバイバル感覚の防災体験に通じると思う。高校生、親子などが参加しているようで、まさに防災でのターゲットとしたい層である。
- ・「外国人定住」では、すでに災害時通訳ボランティアを養成されているのは素晴らしいこと。

# 外国人定住

圏域外国人人口及び人口割合

	実数（人）				人口割合（％）			
	H17年	H22年	H27年	R2年	H17年	H22年	H27年	R2年
美濃加茂市	3,687	4,189	3,546	4,642	7.1	7.7	6.4	8.2
坂祝町	469	535	490	503	5.5	6.4	6.0	6.2
富加町	58	104	106	135	1.0	1.9	1.9	2.4
川辺町	165	175	114	200	1.5	1.7	1.1	2.0
七宗町	16	21	20	27	0.3	0.5	0.5	0.8
八百津町	55	55	45	139	0.4	0.5	0.4	1.4
白川町	51	65	63	104	0.5	0.7	0.8	1.4
東白川村	31	17	15	20	1.1	0.7	0.7	1.0
圏域	4,532	5,161	4,399	5,770	4.2	4.8	4.2	5.6
岐阜県	36,793	36,879	35,382	48,979	1.7	1.8	1.7	2.5
全国	1,555,505	1,648,037	1,752,368	2,402,460	1.2	1.3	1.4	1.9
(近隣市)								
可児市	4,541	4,094	4,908	7,335	4.6	4.2	5.0	7.3
関市	1,522	1,455	1,290	1,952	1.6	1.6	1.4	2.3
各務原市	2,718	2,598	2,226	2,974	1.9	1.8	1.5	2.1
多治見市	931	1,161	1,235	1,870	0.9	1.0	1.1	1.8

出典：国勢調査

## 事務局の意見

### ▶定住事業で実施している取組み

- ・行政文書を多言語化し、圏域で共同利用
- ・日本語教室の開催
- ・災害時通訳ボランティアを養成
- ・小中学生を対象に日本の学校生活にスムーズに適応できるよう支援

### ▶各市町村で実施している取組み

- ・海外派遣を通じて自国との違いを感じ、多様な視点を持った住民を育成
- ・年長年中児童を対象に、日本で生活していく生活指導を実施

### ▶今後必要な取組み

- ・日本人と外国人が直接コミュニケーションをとれる場の提供
- ・外国人定住者のコミュニティを把握
- ・町内企業との連携

## 首長の意見

### ▶今後必要な取組み

- ・ コロナ対応も含めた災害時の対応
- ・ 行政文書翻訳業務の共同委託
- ・ 地域民間企業との連携
- ・ 地域で孤立しないための取組み
- ・ 情報連携の仕組み作り

## クリス委員の意見

- ・ 本当に彼らが必要としている事のニーズ調査を行い、事業を行ってほしい。
- ・ 定住したいと思ってもらうためには、圏域の魅力や楽しさを知ってもらうことも重要。
- ・ 日本人、外国人分け隔てなく「未来のヒトづくり」が実現される、美濃加茂市であれば、必然的に外国人にとって住みやすく、定住したくなるはず。外国人定住×未来のヒトづくりの相乗効果は高いと思う。
- ・ 外国人定住×防災の連携。「安心・安全」な暮らしができるまちは定住先として検討をする際に重要なポイントとなる。

## 加藤委員の意見

### ▶健康

・SDGsの取組みで、美濃加茂市が中部国際医療センター隣接のヘルステックセンターで取組む活動（特にフィリップスとの連携での健康データの活用と健康活動）、およびクアオルトウォーキングとの連携を進められるよう、これらの取組みに関連付けていけると良い。

・「24時間電話相談窓口事業」のKPIが利用回数だけでなく、相談後のアフターフォローなどその後の配慮・検証できるようになると良い。そのため電話相談だけでなく、リアルに面会できる、あるいはビデオ会話できるような包括体制が進められると良い。

高齢者だけでなく「地域包括支援」の形をみのかも定住自立圏で構築していく礎になると良い。

### ▶未来のヒトづくり

・「里山まちづくり事業」と「里育事業」をブリッジするものはどんなもので協議などはされているのか。

「聞き書き」の部分と「里山×STEAM」における里山の本来の機能についての関連など、相互につながるものがあると事業は違っても深みが変わってくるように思います。両輪で回していく仕掛けを検討されたい。

・「里山まちづくり事業」のKPIがホームページのPVというのは、目的と評価手段が違うように思う。聞き書きの参加者数、得られた知見や内容、数などが評価の1つであり、それらを未来を担う若者とともにもどう研究し共有していけるかが本来のKPIではないか。

・里山と農林業の振興を目指す取組みは、今後のモデルとなる要素が多く、炭素循環も含めて地域内で資源を回し取組んでいくモデルとして美濃加茂市と七宗町だけでなく、さまざまなテーマで広がって欲しい。

・ワーケーション、空き家対策だけでなく、未来に向けての仕事づくり、あるいはスローライフや趣味を楽しみながら環境改善やツーリズム、白川町や東白川村で始まった「特定地域づくり事業協同組合制度」を活用した取組みを圏域へ広げ、圏域全体で季節性の労働循環が起きる仕組みを作ることが未来への定住促進につながる。

## 加藤委員の意見

### ▶公共交通

・各種イベントや楽しめるスポットへの公共交通手段での移動を提案することや、シェアサイクルの取組みを広域で広げていける形で、地域内の移動、地域間の移動をよりわかりやすくする。

・あい愛バスは、グーグルで検索すると行先までの検索で公共交通と合わせて検索ができるようになっている。この機能を圏域全体でも登録を進め、移動手段が分かりやすい地域にしていけると良い。

その上で、共通チケットや地域通貨のような機能を検討していきたい。

・オンデマンド、AIを活用した集配やタクシーなど全体最適を考えた設計で公共交通を考えていきたい。

### ▶防災

・防災アプリの多言語化を全体で進められたい。

・美濃加茂市のSDGsの取組みに関連して、再生可能エネルギーで地域づくりを行っていく「再エネ」「脱炭素」の地域づくり事業を圏域全体で進めることで、そこで得た電気を蓄電、災害時への活用や全体として循環させていく「防災に強いまちづくり」への取組みも進められたい。

### ▶外国人定住

・これまで取組んだことに、自転車ツーリズムのツアーに外国人定住者にガイドになっていただく試験運用をしましたが、このような形で外国人市民が主役となるようなサービスを圏域全体で考え共有していけると良い。八百津町などに主体的に活躍し始めている外国人定住者の地域おこし協力隊の職員などがいるが、彼らのような活躍をもっと地域内外へ発信していくべき。

# 重点分野以外

## 首長の意見

### ▶今後必要な取組み

- ・ DXに関する共通業務課題を精査し、共同で課題解決を目指す。
- ・ 圏域内の統一業務（圏域内の公共施設の精査し、集約等の検討等）を選定し、スケールメリットを突き詰める取組み。
- ・ 圏域内に人を呼び込める取組み。
- ・ 単独でできないスポーツイベントや著名な芸術家の展覧会。